

平成 25 年 度

事 業 報 告 書

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

認定特定非営利活動法人 HOKKAIDO しっぽの会

平成 25 年度事業報告書

平成 25 年 4 月 1 日から 平成 26 年 3 月 31 日まで
認定特定非営利活動法人 HOKKAIDO しっぽの会

事業の成果

本年度も活動の主軸である行政機関に収容されている犬猫の保護・譲渡事業を積極的に行った。また、より多くの方々に対して、北海道、ひいては日本国内における犬猫の現状を、会報やインターネット、イベントを通じて啓発し、人とペットが共生していく社会づくりに寄与することに取り組んだ。

平成 25 年 7 月 9 日、認定 NPO 法人となり、より一層の社会的な役割や責任を伴った。9 月には改正された動物愛護管理法が施行され、第二種動物取扱業の届出をする。

事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

1. 保護事業

行政機関から殺処分される犬猫を引き取って、新しい飼い主を探す事業では 133 匹の犬猫を譲渡していますが、前年度の犬猫譲渡数 139 匹より 6 匹少なくなりました。また、保護した犬は 118 匹、猫は 46 匹の合計 164 匹で、前年度の犬猫保護数 158 匹より 6 匹多くなりました。引取り数が増えて譲渡数が減少しているのは、当会では譲渡の可能性が低い高齢やハンデのある犬猫たちを積極的に引取りしているため、当会で長く暮らす子も多く譲渡数の減少となりました。また、老衰や病気で亡くなった子は 18 匹で、中には引き取り直後に病院に向かう車中で死亡した子もいました。

北海道も保健所などの行政機関から犬猫を迎え入れる方も多くなり、市民への譲渡が進んでいることは大変喜ばしいことです。当会はそういった経緯からも、高齢やハンデがある・人慣れしていなく社会性が身についていない等、一般譲渡には不向きと判断されがちな犬猫を引き取ることが多くなっています。

犬・猫保護状況（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

犬・猫	引取り数	譲渡数	引き取り後死亡数	譲渡率
平成 24 年度	158	139	17	87.9%
平成 25 年度	164	133	18	81.1%

犬	引取り数	譲渡数	引き取り後死亡数	譲渡率
平成 24 年度	129	99	13	76.7%
平成 25 年度	118	97	14	82.2%

猫	引取り数	譲渡数	引き取り後死亡数	譲渡率
平成 24 年度	29	40	4	137.9%
平成 25 年度	46	36	4	78.2%

■健康管理状況

保護した犬や猫は引き取り直後に動物病院で、感染症検査、混合ワクチンを接種していますが、全匹に基本的な健康診断も実施することになりました。これにより、引き取り直後の健康状態を把握し、病気の早期発見や予防に努めることが出来ています。また、麻酔による弊害など健康に問題がない限り、引き取りした犬猫全匹に避妊・去勢手術を実施、同時にマイクロチップも挿入しています。

これにより、病気の予防はもちろんのこと安易なあるいは望まれない交配を完全に防ぎ、迷子や遺棄の防止に役立っています。

■飼育環境状況

老犬・小型犬が暮らす犬舎に屋根付の運動場を増設しました。これにより雨や雪など悪天候でも屋外で安全に運動したり気分転換をすることが可能になりました。また、主に大型の老犬を収容している旧犬舎の壁に断熱材を入れ、老朽化した間仕切り等を修繕しました。また、内壁を塗装し明るい印象になったので犬猫の面会・見学がしやすくなりました。

2. 動物の保護・愛護・福祉の啓発事業

動物の保護や愛護、福祉をイベントやインターネット及び自会の会報誌等、テレビや新聞、雑誌等のメディアを通じて、多くの方々や子どもや保護者等に生命尊重を伝えた。

4月

・札幌市動物管理センターに犬混合ワクチン・猫混合ワクチン・インターフェロン寄贈。
収容中に感染症に罹り殺処分される犬猫が減少しました。また、これにより札幌市動物管理センターでは猫混合ワクチンが予算化され、上田札幌市長より、支援者を代表して当会が感謝状を頂きました。

5月

・HBC 北海道放送様「グッチーの今日ドキッ」で札幌市動物管理センター福移支所の休日譲渡窓口開設、当会の保護活動、卒業犬のその後の様子などが放映されました。

札幌テレビ放送（STV）様の「どさんこワイド」で、札幌で飼い犬を虐待していた事件を受け、動物虐待について、また当会での保護犬の現状などが放映されました。

6月

- ・行政機関からの要請で引き取った、大きな腫瘍を持ったまま遺棄された犬に関する記事が釧路新聞様に掲載されました。
- ・環境省 動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針及び動物の飼養及び保管に関する基準等の改正案に対する 意見の募集（パブリックコメント）に意見を提出しました。

7月

- ・認定NPO法人としてステップアップし、より一層の社会的な役割や責任を伴いました。
- ・「井ちとせジャズストリート 2013」に参加し、普段、動物に関わることの無い方々にも、犬猫を取り巻く状況を理解いただけるよう広報活動を行いました。

8月

- ・新さっぽろフェスティバル「WA」に参加し、普段、動物に関わることの無い方々にも、犬猫を取り巻く状況を理解いただけるよう広報活動を行いました。
- ・HBC 放送「NEWS1」で高齢の飼い主を中心に、放棄されるペットたちの現状と対策を考える内容が放映され、当会の活動も紹介されました。
- ・しっぽの会オンライン寄付を開始し、これによりクレジットカードでの寄付が可能になりました。

9月

- ・ホームページに「会報」のページを増設し、これまでに発行した会報の動物に関する特集記事を掲載しています。
- ・「2013 動物愛護フェスティバル in えべつ」に参加、動物愛護の啓発活動を行いました。
- ・「札幌市動物愛護フェスティバル 2013」に参加、動物愛護の啓発活動を行いました。
- ・千葉浦安舞浜ディズニーランドにて「HAPPY MUSIC FESTA 2013」に参加、動物愛護の啓発活動を行いました。

10月

- ・北海道ペット情報誌「わんハート」様の改正動物愛護管理法記事に当会からも、コメントを掲載させていただきました。
- ・北海道新聞東京版に当会の全道保健所情報に関する記事が掲載されました。
- ・毎年恒例となっている 2014 チャリティカレンダーを発売（6年目）し、今年は新たに卓上カレンダーも販売し保護資金、啓発活動になりました。

11月

- ・9月1日に改正施行された動物愛護管理法で新たに創設された、第二種動物取扱業を管轄自治体である空知総合振興局に届出しました。
- ・石狩熊谷病院チャリティイベントに参加、動物愛護の啓発活動を行いました。
- ・月刊「ねこのきもち」にしっぽの会の紹介記事が掲載されました。

12月

- ・UHB テレビスーパーニュースで老犬の認知症や介護の問題特集に当会の老犬と世話をするスタッフが取り上げられました。
- ・北海道新聞に「2014 しっぽの会カレンダー」記事が掲載されました。
- ・札幌市駅前通地下歩行空間で動物愛護のパネル展示などを中心とした啓発イベント 2013「私たちにできること」を7日間にわたって開催しました。

2014年1月

- ・認定NPO法人となり、初の確定申告用領収証を発行し、発送作業を行いました。
- ・保護犬を基にした舞台劇団32口径25周年記念『SMILE』に参加しました。
- ・新さっぽろギャラリーにてしっぽの会パネル展を開催、普段、動物に関わることの無い方々にも、犬猫を取り巻く状況を理解いただけるよう周知を行いました。

2月

- ・恵庭えこりん村～第3回「えにわ犬ぞり大会イベント」参加、動物愛護の啓発活動を行いました。

3月

- ・札幌市保健所運営協議会札幌市動物愛護管理のあり方検討委員会に当会副理事が参加しています。

- ・会報は2月、5月、8月、11月の年4回発行
- ・足長通信は毎月末発行

3. ペットと共生するための地域環境の保全事業

狂犬病などの人畜共通感染症の恐ろしさを伝え、飼い主に正しい飼い方やワクチン接種の重要性を、一般市民にも保健衛生の大切さを伝えた。野良猫と共生できる方法を伝え、地域猫活動を支援した。

平成 22 年度 11 月に発足した「飼い主のいない猫基金」では、該当する地域猫活動グループに対し、野良猫の避妊・去勢手術代の一部を援助した。次年度は更に地域猫活動の周知に努め、地域猫活動を行っているグループへの助成、現状解決に向けて活動を活発化する。

※ その他の事業はありません。

<次年度の課題>

1. 旧犬舎改築工事に関する件

高齢やハンデのある犬や小型犬なども、快適に過ごせる環境に整える。今後の状況次第では、事務所が手狭になっているのでプレハブの事務所を設置したい。

2. 多頭飼育の問題や動物虐待などに関する件

北海道内でも犬や猫を多頭飼育している飼い主、いわゆるアニマルホーダーの問題が表面化している。また、動物を虐待する犯罪や、重大な咬傷事故も起きており、動物を取り巻く各種法令が順守されていない場合も多く、その際は関係機関に問い合わせるなど声を上げ、法律が機能するよう『動物愛護管理法』の周知や関係機関への働きかけを積極的に行っていく。

3. 飼い主のいない猫に関する件

野良猫の TNR 活動を広く周知する。野良猫の避妊・去勢手術を低料金で実施していただける協力動物病院を北海道内各地に募り、TNR 活動を実践している地域猫活動グループを援助する。

以上